**参考資料　1**

「今後の高校教育の在り方を検討する会」の結果概要について

令和２年９月４日
高 等 学 校 課

今後、少子化が一層進み教育環境が大きく変化することが見込まれることから、昨年度、県内の公立・私立高校の将来の在り方について、公立・私立高校の関係者が保護者、市町村教育委員会、中学校関係者など幅広に意見を聞き、３回にわたり長期的な観点での高校教育の在り方検討会を開催した。

**１　第１回目（令和元年６月３日開催）の概要･･･【テーマ】今後の検討の方向性や支店**

**≪主な意見≫**

〇人口最少の鳥取県では、公立・私立が一緒になって高校教育の課題に取り組まなくてはならない。

〇高校の魅力向上には、学校設定科目を活用し、より大胆な発想で高校を地域とつなげる視点が必要。

〇各高校の特色、特徴的な取り組みや魅力が中学生やその保護者に十分伝わっていない。もっと効果的な方法等を工夫してアピールするべき。

〇今後は、個々の生徒の学力や事情に応じた教育指導がより求められることから、各学校で自己完結させるよりも、他の学校、地域との連携などが必須になると思われる。

〇学校の枠、公私の枠を超えて、コンソーシアムのような形でやっていくとか、コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の枠組みをもっと柔軟に運用するなどの取り組みも必要。

**２　第２回目（令和元年１１月１８日開催）の概要･･･【テーマ】将来の少子化に向けての想定**

≪主な意見≫

〇生徒減により学校規模が小さくなると生徒に目が行き届く、保護者との連携が取り易いというメリットもあるが、子どもたちの人間関係が狭まり価値観が広がらないという負の側面も考えられる。多様な価値の中で生徒を作っていくためにも様々な場面に接することのできる機会の提供などの工夫も必要。

〇他県においては、学級定員を減らさない、あるいは高校の数を減らさないといった取組も見られる。

〇人材の育成という観点から農林水産や情報の学科は県立で一定程度配置し、私立はそれぞれの特徴を持ってやっていくといった、鳥取県の高校教育全体のデザインの中で考えていくべき。

〇生徒減でどのような教育体制が作れるか、部活の在り方や教員の働き方など、根本的に変える契機としたい。

〇県立私立共通の教育課題である、特別支援や不登校などに関する対策について、県立と私立が協同して取り組んではどうか。

**３　第３回目（令和２年２月１８日開催）の概要･･･【テーマ】県内の高等学校の 10 年後の姿**
**特別支援等のための公立・私立協同の取組**

**≪主な意見≫**

〇生徒数の減少に対して統廃合で学校規模を維持するのではなく、小さくても様々な特色のある学校をたくさん作って生徒に選択肢を与えることが望ましい。

〇ＡＩの進化により、知識の習得が個別最適化され、教師は生徒に対し、外部とのコーディネートの役割や様々な悩み等のカウンセラーの役割が求められてくるのではないか。

〇10 年後のイメージとして、鳥取県の小回りが効く利点を活かし、東・中・西部の地区ごとに果たすべき役割や、専門性を持った学科を備えた自由な学校群を作ることはできないか。各学校群が集合体として色合いを持ち、生徒が自由に学んで回れるようなことができればよい。

〇ＡＩやＩＴ、５Ｇといったことを考えると、それに対応した教育が必要であり、その結果そうした教育には少人数学級が最適ということになれば、財政負担はあっても少人数教育を実現すべきではないか。

〇公立・私立に関わらず高等学校の中にフリースクールをつくり、他校の生徒が通える等、生徒が自由に学ぶ場所を選べることを公私協同でできるのではないか。

**参考資料 ２**

# 小規模校における魅力化の取組

令和２年１１月２５日
高　等　学　校　課

## １　青谷高等学校

### （１）学校設定科目「青谷学」の設置

○青谷地域の歴史、文化、産業を知るとともに地域の課題に気づき、その解決策を考えさせることで、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を育成するとともに、地域に貢献する姿勢及び態度を養う。

○２年次生（45 人）を３グループに編成し、各グループが年間３テーマについて学習する。(テーマ青谷上寺地遺跡の発掘や西因幡の伝統文化、青谷ジオサイト、青谷の漁業、青谷の食等の研究)

### （２）学校設定科目「地域環境芸術」、「弥生文化探究」の設置

○「地域環境芸術」では、芸術の幅広い活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術文化への理解を深め、豊かな情操を養う。鳥の劇場を指導者に向かえた芝居づくり・映画づくりなどの活動を通して、多角的なものの見方や、考え方に基づく言語表現能力を高める。

○令和３年度から設置予定の「弥生文化探求」では、３年次を対象にした新設の科目で、青谷上寺地遺跡の発掘、調査や弥生時代の生活体験などにより、青谷学とも連携して、考古学への興味をより深める。

### （３）体育（スポーツⅤ）へのサーフィン、スポーツⅣへのダンスの導入

○地元の海の良さを再認識させるため、自然体験型活動を実践する科目「スポーツⅤ」に、地元サーフショップの経営者を講師に、平成 30 年度からサーフィンの授業を開始。サーフィン以外の時期には、サイクリングやフィッシングなども実施。

○また、令和３年度からは近年、中学生にも人気の高い「スポーツⅣ」にダンスを取り入れることとした。

### （４）「あおこうまるしぇ」の開催

○鳥取市青谷町総合支所にも協力をいただき、３年次の「課題探究」の授業において、生徒がこれまで研究に取り組んできた成果を地域の方々に紹介していただき、青谷の魅力を広めることを目的に令和元年度から開催。令和２年度は「青谷周辺の植物を用いて草木染」、「青谷木綿の復活」、「発見！青谷町と赤間関廻船ルート」など研究の成果を発表した。

## ２　岩美高等学校

### （１）イワッツミッションの展開

○岩美町との積極的な関わりから地域を学び、地域研究、地域に貢献する活動の企画・実践を行い、これらを通じて社会的・職業的自立に向けた態度を養うとともに、将来の地域を支える人材を育成する。

○クラスの枠を解いてテーマ班を設定し、地域の方にゲストティーチャーとして関わっていただくとともに、各班にティーチングアシスタントとして地元大学生を配置し、研究・成果発表を行う（テーマ例　道の駅を盛り上げよう、網代地区の活性化（１日限定高校生レストラン）など)。

### （２）学校設定科目「手話基礎２」の設置

○福祉類型において手話言語に関する知識や技術を習得し、多様な場面で活用することを通して、ろう者とのコミュニケーション力を高め、福祉マインドの育成や共生社会を担う力を養う。

○具体的には、手話言語条例の意義、発展手話言語表現、課題研究などにより年間を通して学ぶ。

### （３）福祉・フード類型の設置

令和３年度から「福祉・フード類型」を設け、「製菓」及び「調理」の科目を設置することで、既存の栄養や食文化、フードデザインといった科目とも連携し、食に関する学びの充実を図る。

これにより、食に関する知識・技術がこれまで以上に実践的に学べるようになり、調理関係の専門学校への進学や飲食業界への就職を希望する生徒たちの受け皿も拡大することが期待される。

３　智頭農林高等学校

（１）ふるさと創造科の設置

○平成 28 年度入学生からを対象に地域と連携し、地域の資源を活かした特色ある教育を実践し、ふるさとを愛し地域を担う人材を育成するため、平成 28 年度に「園芸科学科」を改編して設置。

○近年では生徒が制作した藍染めののれんを町内の家々に飾り、江戸時代に県内の宿場町であった「智頭宿」としての魅力ＰＲなどに取り組んでいる。

（２）学校設定科目「地域基礎」の設置

○地域活動に取り組む団体や福祉・保育施設と連携し、現場での体験を重視した学習を行い、地元地域（智頭町）の現状を理解するとともに、地域を担うさまざまな能力を養う基礎的・基本的な技能・態度を育成。

○具体的には、智頭町内を、地域の文化、地域の産業、地域の取組を地域の方々から話を聞いたり、体験を通じて地域の活性化プランを考える。

（３）ちのりんショップの運営

○月に１回程度、智頭町内の河原町商店街内で生徒が育てた新鮮な野菜・花やお菓子、みそなどの加工品、地域の方々がつくった特産品などを生徒が町内の店舗で販売。

（４）スーパー農林水産業士の育成

○長期就業体験（デュアルシステム）や高度な資格への挑戦など農林水産分野に係る実践的な知識・技術の習得等を支援し、一定の基準を満たした生徒を「スーパー農林水産業士」として認定（同校からは過去、農業分野で５名、林業分野で２名のスーパー農林水産業士が認定）。

（５）町の基幹産業と連携した林業学習

○同校の森林科学科には、森林の保全や生態系、森林資源の活用について学ぶ「森林応用コース」と家具や木材建築などを中心とした、木材の加工と有効活用を学ぶ「木材加工コース」を設置。森林応用コースでは生徒が自ら発起して、地域の方の指導を受けつつ棚田の景観保全に取り組んだりしている。また、木材加工コースでは曲げわっぱの制作や住民向け体験教室、若年者ものづくり競技大会を目指して地域の木工職人に建築関係の技術を学ぶなどしている。

４　日野高等学校

（１）寮を活用した学習指導（H30～）

○四年生大学等への進学を目指す生徒が在籍する総合進学系列では、生徒を寮に入寮させ、夜間学習（月曜から金曜、夜１時間 45 分の学習指導）を実施。

（２）特徴ある部活動

○神楽を学ぶ郷土芸能部、エアライフルなどを使用する射撃部、ソフトテニス部など特徴ある部活動が活躍しており、射撃部は特に県外生徒の興味を引く素材として人気が高い。

（３）ヒューマンケア系列の運用開始

○少子高齢化の進行する地域の特性及び介護への地域ニーズに鑑み、平成 29 年度入学生から「ヒューマンケア系列」を設置。令和３年度からは、e スポーツを介護に取り入れることで高齢者の認知機能や身体機能の向上に取り組むといった新しいチャレンジをスタートさせる。

（４）地域と連携した特色ある学びの場

○日野高版デュアルシステムとして、林業関係事業所で年間 10 日間、就業実習を実施。また、１年生時から必修科目として「産業社会と人間」を通じて自己理解、キャリアプランニング能力の育成に努め、２年次には日野郡内の事業所を中心とした「職場体験学習」を経て、３年生で地域と関連あるテーマで課題を設定し、調査・研究を行うほか、農業科目選択の生徒が生産した草花や加工品を販売する県内外で日野高ショップを開催。

○日南町、江府町、日野町の３町が連携して運営する公設塾「まなびや縁側」が R2 に日野町役場敷地内に開設され、日野高生と日野郡在住の高校生が教科の学習指導の他、地域でのフィールドワークによる課題解決型学習に取り組んでいる。